

## ウォーキング雑感（その4）



(一社)日本機械土工協会  
常務理事 保坂 益男

### 夏バージョン

ここしばらく、旧街道歩きはお休みにしています。今まですでに東海道、中山道、甲州街道などを歩いたことは前に書かせていただきました。街道を歩くときには本人が東京単身赴任で、妻が静岡に住んでいるので、お互いが歩く前日に現場近くの宿屋へ移動します。気候と天気が良くて連休の時に2～3日歩いては帰る、これを繰り返しながら歩き続けた結果、行き帰りが便利な街道はすでに全部歩いたことになりました。五街道であるが、東京、静岡からだ歩けば歩くほど現場が遠くなります。どうしようかと迷っております。

ただ、歩くと決断すると、いつでも歩けるように、毎朝雨さえ降らなければ約1時間ちかく7～8,000歩早足で歩くことを日課にしています。

歩くコースは夏バージョンと冬バージョンとがあります。夏バージョンは上野公園の周りであり、夜明けが早いので朝4時30分から歩きだします。住んでいる東上野5丁目（協会まで歩いて5分ぐらい）から、「昭和通り」を横切り、上野駅近くの鉄道線路を跨ぐための陸橋へ上がって上野公園へ入ります。東京国立博物館、東京芸大のある道路を進み、言問通りから上野高校前を通り、清水坂（弘法大師が杖を突いたところ清水が湧き出したとの伝説を書いた碑がある・暗闇坂ともいうとも書いてある。）を下ります。上野動物園の裏と不忍の池に挟まれた道を歩き、洋食の店と

しては日本で1・2を争うぐらい早く明治5年に開店し、はやしライスが有名な「上野精養軒」の裏口をすぎると、「不忍の池・弁天島」から上野公園へ入れる階段を上って、上野公園を横切って帰路につくコースであります。

### カラスは偉い

30年ちかく同じコースを歩いていると、いろいろなものが見えたり、また出会ったりします。はじめはカラスと友達のご婦人の話しです。

電車の線路を跨ぐための陸橋へ上がる道路は200m位あります。その道路の真ん中ぐらいのところ1～2羽、登り切った陸橋で1羽いつも決まった時間に、決まった場所にカラスが止まっており、自転車を押して上ってくるご婦人を待っているのです。

このご婦人がいつも肉片のようなものをこのカラスに与えます。「場所を移動して再度餌を欲しがることはありませんか？」と聞きましたら、「カラスにはテリトリー」があつて、坂の途中のカラスは、坂を上った陸橋のカラスの所には行きません。決して相手のテリトリーには入りません、とのことです。

相手のテリトリーだろうが、相手の口に入っていると思われるものだろうが構わずに取り合いをする人間より、カラスは偉い。

## 公園生活者

陸橋を渡って上野公園に入ったところで生ゴミ収集車に合うことがあります。

上野公園に住んでいる路上（公園）生活者がゴミ収集車に群がっております。助手席にのっている人が「おにぎり」の入っている大きなビニール袋2袋を渡しております。助手席に座っている人はどうやら公園生活者のようです。コンビニなどを回る民間ゴミ収集車に、ゴミ収集のために乗り、「その謝礼」として運転手がコンビニなどから回収する「おにぎり」をビニール袋に集めることと、上野公園へ寄って仲間へ手渡すことで、仕事を手伝わしているようです。

ウインウインの関係です。

同じ場所でマイクロバスが止まっているときがあり、やはり公園生活者が群がっております。「労働者集め」のようですが、建設現場では働くことができないと思いますので、どんなところでどんな仕事をしているのか興味があります。

※上野恩賜公園—上野恩賜公園は、明治6年の太政官布達によって、芝、浅草、深川、飛鳥山と共に、日本で初めて公園に指定されました。ここは、江戸時代、東叡山寛永寺の境内地で、明治維新後官有地となり、大正13年に宮内省を経て東京市に下賜され「恩賜」の名称が付いています。

## 公園の清掃

公園内の道路へ入ると、国立東京博物館の手前の通りから東京芸大の敷地の近くまで車道と歩道を仕切っている鉄柵に公園生活者がトランクやダンボール箱をブルーシートで包んで縛りつけた包が並んでおります。

十年ほど前に数えたときには40個ほどありました。最近は20個台となり、「住民」の数が少なくなっているようです。

時々当局（公園管理者）からその包に、何日までに撤去しなさい。という張紙が張られることがあります。その日が終わるとまた元の状態にもどります。なんだろうと思い「住民」に聞いて見ましたら、「皇族」など偉い方が東京国立博物館など展示物を見学することがあり、その日は荷物を見えるところへ置くことはできない、とのこと。なるほど。

広大な上野公園、しかもいろいろな木が随所に生えているなかで、芝生をはじめ木の下や、風の強い日は落ち葉が舞っている道路などが、いつも意外に綺麗になっているのはなぜでしょう。もちろん公園の管理事務所には、ゴミ収集車をはじめ用具が完備されており、日常的に職員が掃除していることが想像されます。しかし私が歩く早朝には、残念ながら職員は出勤していないので、職員が掃除している現場を見たことはありません。ただ住民の例の荷物の横には、竹箒が立てかけてあり、私の歩く時間内でもいつも何人かの住人が歩道や木の下、芝生などを綺麗に掃除している姿を見かけます。おそらく管理事務所にとって大きな助力になっているのではないのでしょうか。

これは一種のウインウインの関係でしょうか。

## ※東京国立博物館

明治5年（1872）、文部省博物館が湯島聖堂大成殿において最初の博覧会を開催したとき、その産声をあげました。博物館は開館後間もなく内山下町に移転、次いで明治15年に上野公園に移り、現在にいたっています。